

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19106016	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	海洋における巨大波浪の予知と回避に関する研究	研究代表者 (所属・職)	木下 健（東京大学・生産技術研究所・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、フリークウェーブと称される海洋巨大波浪の予知と回避を目的として、理論モデル・実験による発生指標の構築及び回避航路計画の提案を行うものである。研究は着実に進展しており、研究成果も期待どおり挙げられている。研究組織運営及び研究費使用状況にも問題はなく、研究期間終了までの研究目的達成は可能であると考えられる。</p> <p>しかしながら、研究の遂行に重要なフリークウェーブの実態の把握については、この実施が難しいにしても不十分であり、海流などの発生因子の検討も不足している。また回避航路に関する検証についても計画が明確ではない。</p> <p>上記を勘案のうえ、実効的な予知・回避システムの構築の努力を今後とも期待したい。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>海難事故の原因となっているフレーク波の予知を目的に実施された巨大波発生指標を理論モデルと実験で検証すること、及び数値シミュレーションとリモート観測技術によるフレーク波観測アルゴリズムの開発は、当初の期待通りの成果が達成されている。また、構築した手法を実際の回避航路計画に役立てる研究についても、航路決定の効率的なアシストシステムが開発されている。開発されたシステムがどの程度まで実際の運航に有効であるかは実証されていないが、当初の目標である手法の提案に留めて考えれば、期待どおりの成果が達成されたといえる。</p>